

思ったことが言えない少年

豊川小・6 高須 果歩

私は『きよしこ』という本を読んで、最初は悲しい話だと思いました。なぜかというと、「きつ音しよう」というくせを持った少年が主人公だと書いてあったからです。私がこの本を読むことになったきっかけは、去年、重松清さんの他の本を読んで面白かったことと、姉がすすめてくれたことです。

この話の主人公は、きよしという少年です。きよしはきつ音しうで、言いたいことがうまく言えません。そのためクラスのみんなに、からかわれてしまい、くやしい思いをします。きよしは思ったことを何でも話せる友達が欲しいと願っています。しかし、そんな友達は夢の中にしかないことをきよしは知っていました。この本は、そんな少年の心の変化を描いた物語です。

私はこの本の中で、特に印象に残ったところが二つあります。一つ目は、きよしがどんなに話したくても自分の思ったことが言えないところです。なぜかという、自分が思ったことを話したくても話せないことはとても苦しくてつらいことだと思ったからです。二つ目は、自己紹介をするたびに、みんなから笑われてしまう場面です。私だったらそんなことをされたら怒れてしまうのに、きよしは、「笑われたって気にしない。笑う方がバカなんだ」と冷静に言っていたからです。私は、きよしはまだ小学生なのに、こちらが気にしていると余計におもしろがっていいじわるを仕かけてくるという考え

になるところがすごいと思いました。

この本を読んでみて、初めとは違い、悲しい話ではないと思いました。私は最初、きよしは一人ぼっちでいじめられてかわいそうだと思っていたけれど、きつ音しようというなやみがありながらも、自分なりにがんばっていいこうと、成長するきよしの強さや、優しさが見え、自分もはげましてもらえました。きよしの言葉で特に心に残ったところがあります。それは、「一人ぼっちの人なんてこの世には、だれもない。だきしめてくれる人や手をつないでくれる人はこの世界に絶対にいるんだ」という言葉です。自分の周りには一緒に遊んでくれる人やだきしめてくれる人がたくさんいます。でも、それは当たり前にあることではなく、とても大切にしたいけないことだと気づきました。また、きつ音しうの人は言いたいことがスムーズに言えなかったり、なやんだりすることもあるということが分かりました。

私は、学校であまり発言をしません。自分の考えに自信がないからです。しかし、この本を読んでみて、これからはきよしと同じように、考えて、間ちがつたって気にするなと思うように思いました。そして、勇気を出して、分かれるところは自分から、はずかしがらずに発言をして二学期は頑張ろうと思いました。